

平成28年度
地域福祉コーディネーター
活動報告

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課 地域支援係

目次

はじめに	2
1. 江東社協版地域福祉コーディネーターについて	3
2. 地域福祉コーディネーターの設置状況	5
3. 平成28年度 相談・支援実績	8
4. 平成28年度 地域福祉コーディネーター行動記録	10
5. 平成28年度 地域福祉コーディネーター活動事例集	13
6. 江東区社会福祉協議会 地域福祉推進課地域支援係 事業報告	30

はじめに

東京オリンピックを3年後にひかえ、「50万都市」として発展し続ける江東区は、全国でも最も活気に満ちあふれた自治体のひとつであります。

しかし、一方で低迷する経済状況を背景とした、生活困窮者世帯の増加や社会孤立、引きこもり、虐待など、全国に広がり深刻化する社会問題からは、例外ではありません。

これらの課題に対応するべく、行政をはじめ、社会福祉法人、NPOなど、様々な団体が取り組みを行っていますが、希薄化する近隣関係の中で課題の潜在化が進んでおります。

江東区社会福祉協議会では、「誰かが問題に気づくこと」や「困ったときに助けを求められる環境を作ること」が重要であるとし、平成26年度に策定した「第三次地域福祉活動計画」において、これまで進めてきた住民の自主活動の活性化とともに、それを支援する地域福祉コーディネーターの育成・配置を重点事項に位置づけました。

そして平成28年度より区内を4つの生活圏域に分け、各地域に2名、計8名の地域福祉コーディネーターを既存事業兼務で配置しました。

初年度となる平成28年度は、既存事業を活用して、地域福祉コーディネーターが担当地域に出向き、地域課題の把握に努めるとともに、課題解決に向けての体制づくりを地域住民と進めました。

また、「地域の拠点」を確保し交流サロンや地域との連絡会を実施して、地域との新たなつながりを構築することができました。こうした活動を通し、地域からの相談により実施した個別支援や地域支援の概要を本報告書にまとめました。

今後は、一年間の活動を通し見えてきた、従来の制度や組織では対応できない「制度の狭間」にある課題に積極的に取り組み、更に地域福祉コーディネーターの周知に努め、安心して暮らせる地域づくりを推進していきます。

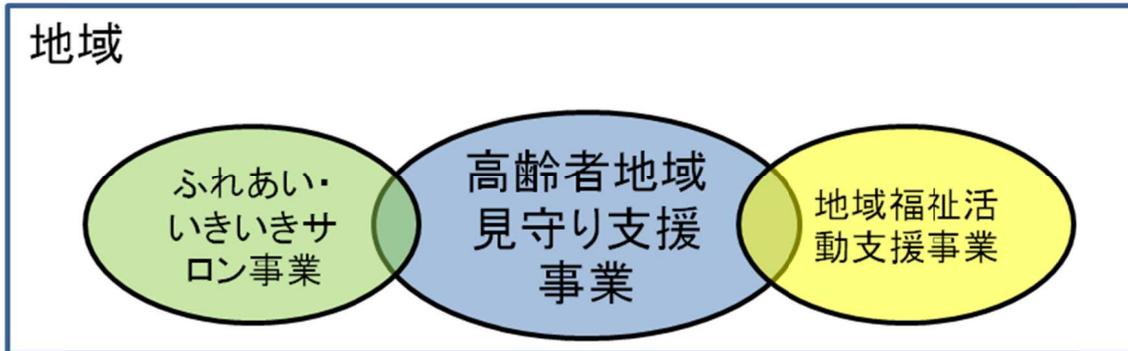
江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課

1. 江東社協版地域福祉コーディネーターについて

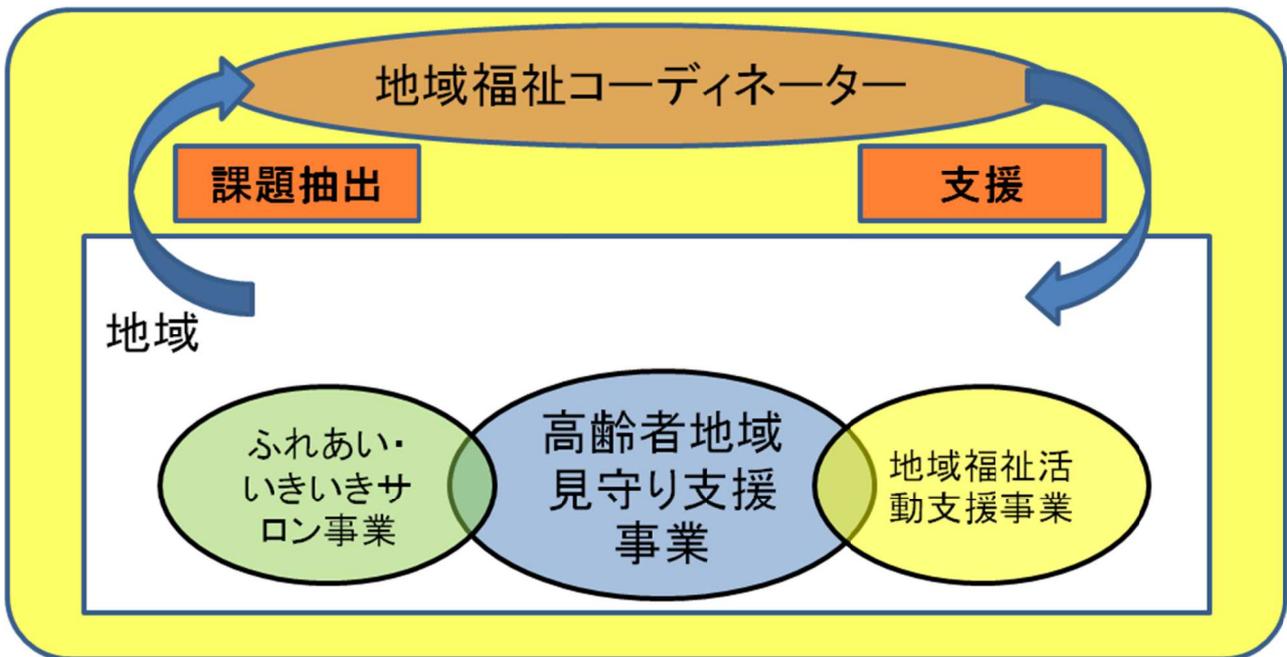
■地域福祉コーディネーターの役割

江東社協版地域福祉コーディネーターは、これまで社協が培ってきた地域とのつながりや「高齢者地域見守り支援事業」「ふれあい・いきいきサロン事業」等の既存事業を活用して地域課題を抽出し、課題解決に向けた住民の活動を支援していきます。

設置前



設置後



■地域福祉コーディネーターが実施する主な事業

○高齢者地域見守り支援事業

高齢者の社会的孤立や孤独死を防ぎ、区民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民が主体となって取り組む見守り活動や支え合いの体制づくりを支援します。具体的には、先進地区の視察、セミナーの開催などを通じて見守りサポート地域を支援しています。

○生活支援コーディネーター

介護保険制度関連の生活支援サービスの提供に向けた、地域資源の開発やネットワークの整備を行うとともに、区内4地域における情報の共有、連携強化の場となる「下町支え合い会議」などを開催しサービス提供体制の整備を図っています。

○ふれあい・いきいきサロン

高齢者、障害者、子育て中の親子などが孤立しないよう、地域住民が自主的に運営していく仲間づくりの場の立ち上げから運営を支援しています。

○地域福祉活動支援事業

①拠点整備事業

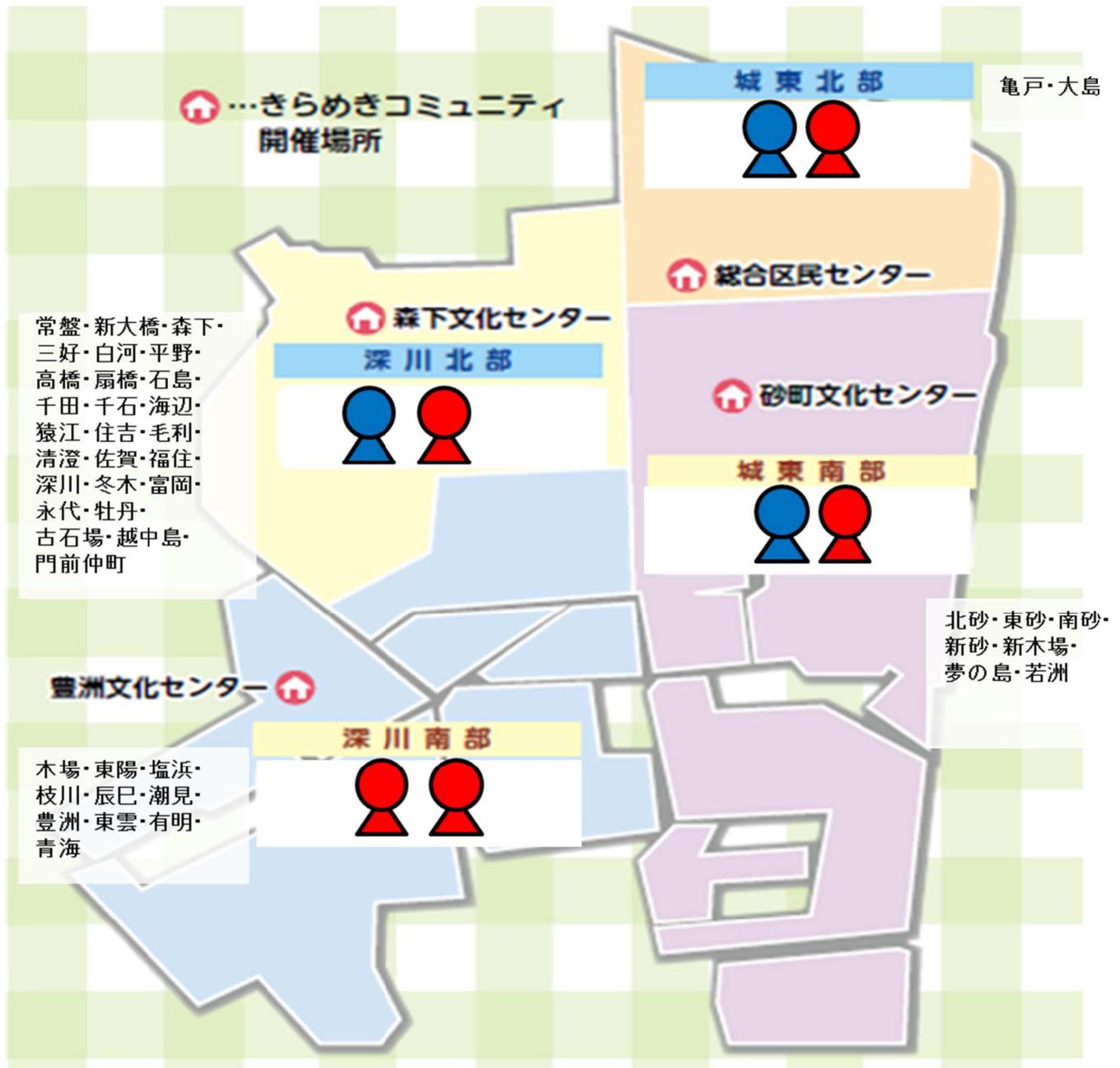
地域福祉コーディネーターの活動拠点を区内4カ所に確保し、交流サロン(きらめきコミュニティ)にて、福祉総合相談、ボランティア相談、各種イベント、地域との連絡会等を開催しています。

②支援事業

地域団体(町会・自治会、マンション管理組合など)、ボランティアグループ、NPOなどが行う地域福祉活動(互助活動)などを支援しています。

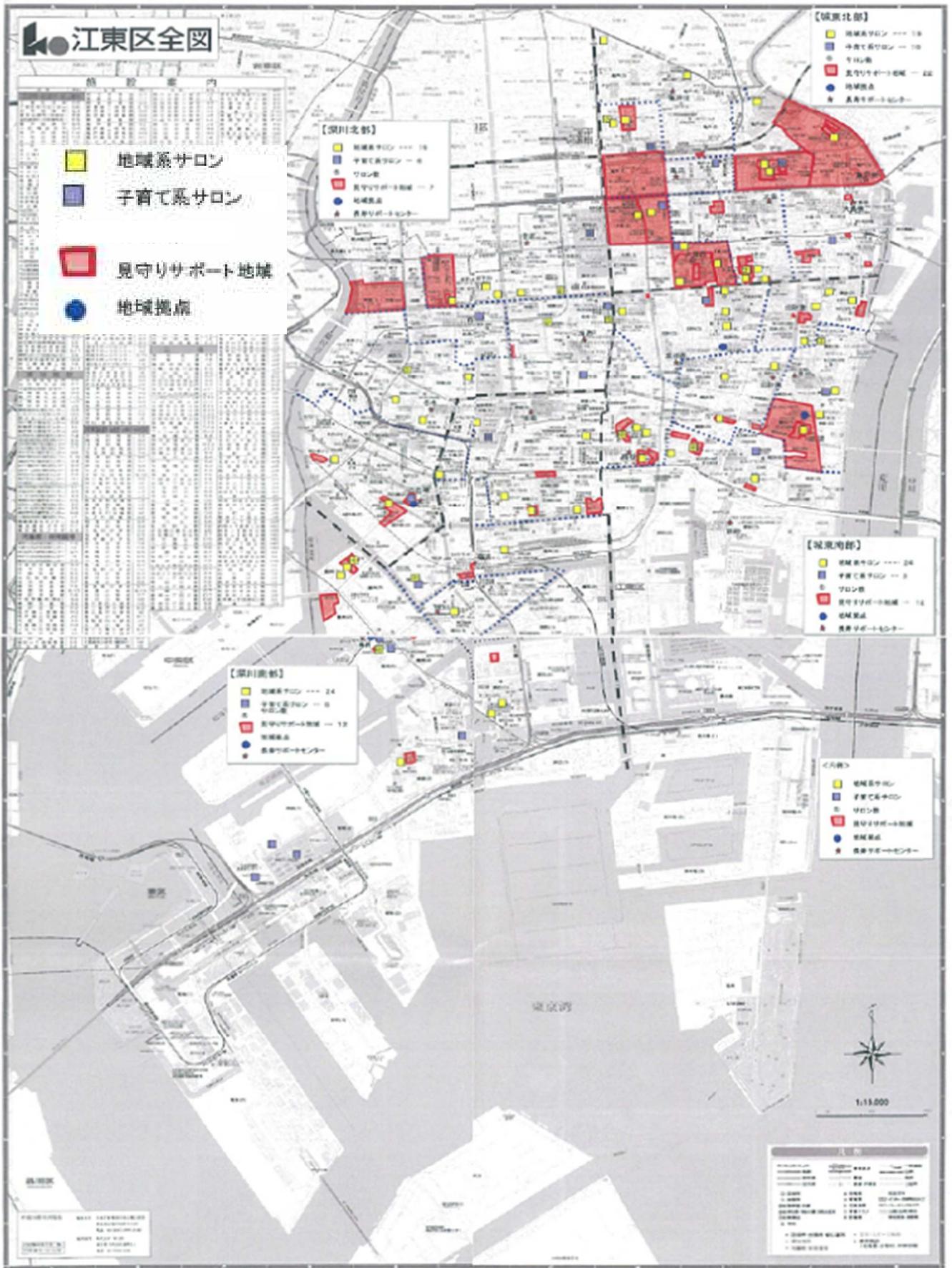
例:見守りサポート地域等の運営支援、こども食堂、
多世代交流の里 すなまちよっちゃん家

2. 地域福祉コーディネーターの設置状況



地域福祉コーディネーターの設置については、平成28年度より、生活圏域を基礎に区内を4地域に分け、地域毎に職員2名（常勤・嘱託）を配置しました。

<見守りサポート地域やふれあい・いきいきサロン等の分布を反映させた地域福祉マップ>



<見守りサポート地域やふれあい・いきいきサロン等の状況を反映させた地域福祉マップ>

区内での活動の広がり状況



3. 平成 28 年度 相談・支援実績

相談件数

地区	相 談	
	個別相談	地域相談
城東南部	36	29
城東北部	23	20
深川南部	19	44
深川北部	14	40
合計	92	133

主な相談内容(個別)

- ・ホームレスの支援をして欲しい
- ・近所で認知症と思われる一人暮らし高齢者がおり、心配
- ・当事者サロンを立ち上げたい(精神障害者)
- ・近隣住民の嫌がらせに困っている
- ・ゴミ屋敷に関わる問題について
- ・近隣住民で心配な1人暮らし高齢者がいる
- ・母親の日中の居場所となる編み物サロンを紹介してほしい
- ・近隣の建物と植木が接触しており、対応について介入して欲しい

主な相談内容(地域)

- ・体操指導者・イベント講師を紹介して欲しい
- ・サロン申請支援、立ち上げ支援、立ち上げ後相談、サロン見学等の相談
- ・子育てママを協力者として生活支援サービスを創設したい
- ・サポート地域の申請支援、立ち上げ支援、立ち上がった後の相談、先進地区視察等
- ・保育士2名で小地域多機能活動を行いたい
- ・区内で活動している認知症カフェの紹介冊子を作成したい
- ・空き家を活用した地域交流の場を作りたい
- ・見守り活動や地域コミュニティづくりの話をして欲しい(出前講座)
- ・町会、自治会でのイベント案を考えて欲しい
- ・自宅1階部分が空いたので、なにかやってみたい(高齢者向けのレクリエーション等)

相談経路

(個別)

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治 会	近隣 住民	ボラン ティア	NPO 任意 団体	その 他
城東南部	15	1	9	0	9	2	0	0
城東北部	10	0	5	4	4	0	0	0
深川南部	8	0	5	3	2	1	0	0
深川北部	8	3	2	1	0	0	0	0
合計	41	4	21	8	15	3	0	0

(地域)

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治 会	近隣 住民	ボラン ティア	NPO 任意 団体	その 他
城東南部	0	2	0	15	5	1	6	0
城東北部	0	0	3	15	0	0	2	0
深川南部	1	1	8	8	7	0	19	0
深川北部	21	0	3	2	3	0	9	2
合計	22	3	14	40	15	1	36	2

4. 平成 28 年度 地域福祉コーディネーター行動記録

全統計

地区	個人直接支援			個人間接支援			地域支援				人材育成	啓発	一般事務	研修	広域	その他	合計
	関係形成	個別支援	連絡調整	関係形成	個別支援	連絡調整	関係形成	立上支援	運営支援	連絡調整							
城東南部	30	39	26	5	21	28	47	34	141	88	6	17	6	5	2	62	557
城東北部	13	20	37	2	2	21	29	14	50	148	8	4	8	8	0	67	431
深川南部	5	18	12	4	51	8	49	44	134	301	44	32	23	8	24	14	771
深川北部	11	12	14	5	8	16	58	18	29	72	0	3	9	2	0	24	281

行動内容分類

- (1) 個人直接支援
 - 1 関係形成 地域福祉コーディネーターが当事者に直接関わること
当事者との関係づくりのための訪問
 - 2 個別支援 支援のための訪問
 - 3 連絡調整 当事者本人との調整（訪問日・相談日の確認など）
- (2) 個人間接支援
 - 1 関係形成 地域福祉コーディネーターが当事者のために他の機関や団体と相談・調整すること
関係団体・グループとの関係づくりのための訪問・会議への出席、イベント参加、エリア内での会議の出席
 - 2 個別支援 関係者との相談
 - 3 連絡調整 関係者との調整、書類渡し、会議調整
- (3) 地域支援
 - 1 関係形成 サロン・居場所づくり、町会・自治会支援、（外部との）企画打合せ・調整
地域住民、団体・グループの関係づくりのための訪問
 - 2 立上支援 地域団体・グループの立ち上げ支援、活動の立ち上げ支援
 - 3 運営支援 地域団体・グループが立ち上げ後の運営支援
 - 4 連絡調整 地域住民、団体・グループとの連絡や調整
- (4) 人材育成 ボランティアへの対応、学生への対応、NPO からの相談対応
- (5) 啓発 地域福祉コーディネーターPR、出前講座、社協 PR、取材対応、事業関連通信の作成

- (6) 一般事務 事務作業、内部打合せ
- (7) 研修 地域福祉コーディネーター研修、他地区社協へのヒアリング
- (8) 広域 担当地区以外の応援
- (9) その他

行動区分

	電話	訪問	来所	メール FAX	その他
城東南部	301	154	75	26	1
城東北部	156	85	26	123	41
深川南部	517	103	101	15	35
深川北部	139	97	17	15	13
合計	1113	439	219	179	90

相手方区分

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治 会	近隣 住民	ボラ ンティ ア	NPO 任意 団体	その 他
城東南部	78	13	117	96	39	27	175	12
城東北部	33	4	89	111	22	1	151	20
深川南部	32	16	208	121	20	55	283	36
深川北部	57	16	35	48	5	0	84	36
合計	200	49	449	376	86	83	693	104

5. 地域福祉コーディネーター活動事例

事例1

多機能型地域福祉拠点 居場所づくり

多世代交流の里 すなまちよっちゃん家

相談内容

○相談者 地域住民

○相談内容

地域住民より「空き家の活用」を考えており、ひと昔前では当たり前であった、高齢者を始め子育て世代の誰もが気軽に立ち寄ってお茶を飲んだり、おしゃべりができる「地域の居場所」を作りたいと考えているので相談に乗って欲しい。

(東砂7丁目一軒家2階建て、1階:門・庭、8畳・6畳・キッチン、2階:6畳、ベランダ)

支援の流れ

相談者の思いを聞き取り、イメージしている「地域の居場所」を具体化するために、先進的な「地域の居場所」として立ち上がっている文京区の「こまじいの家」の視察を行い、地域での多様な機能を持つ「多機能型の地域拠点」と位置づけイメージを共有した。

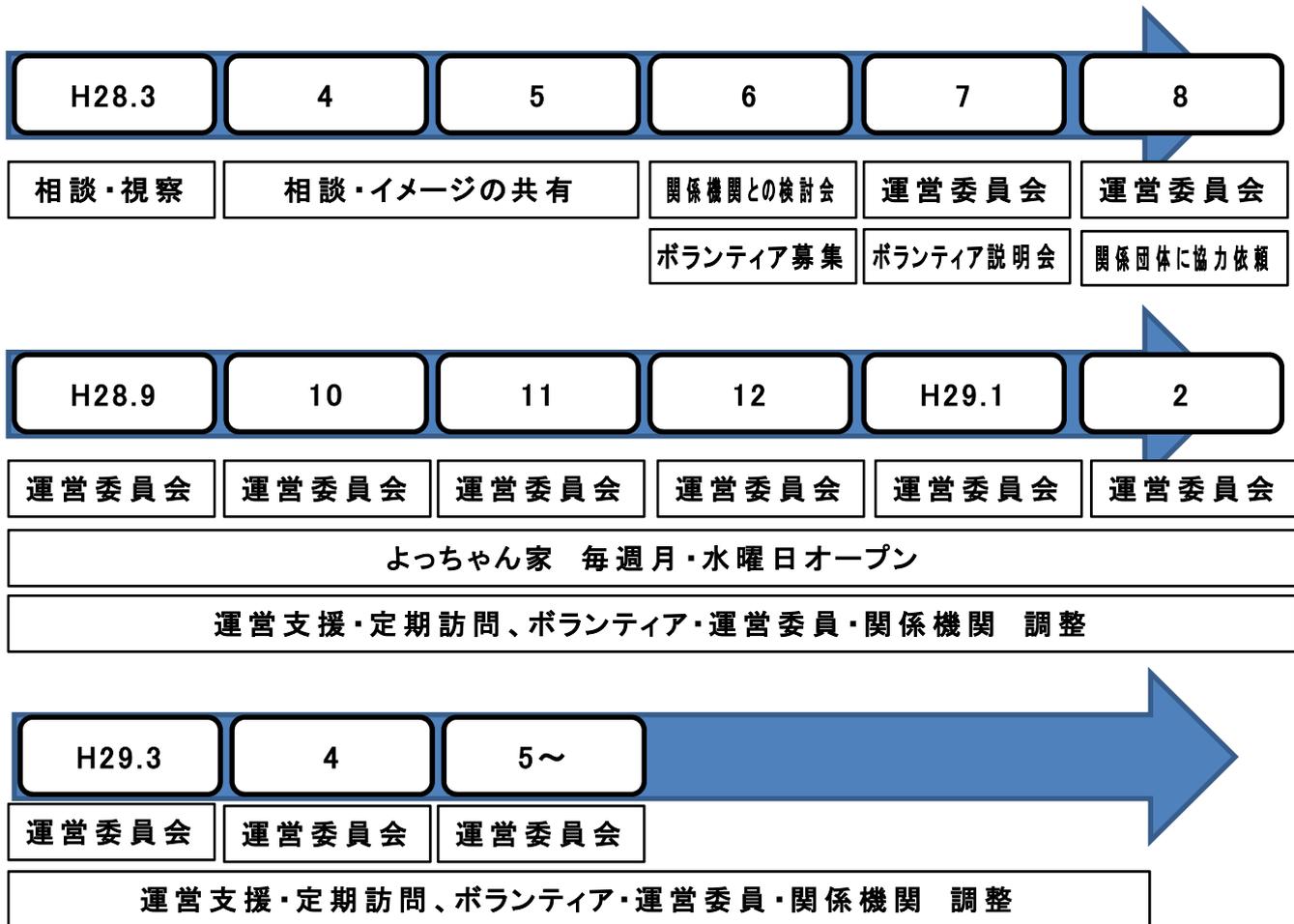
地域の民生・児童委員の方に集まっていただき、趣旨・目的を説明し運営委員として支援していただくと共に、月1回の運営委員会で内容検討していくこととした。

地域福祉コーディネーターは、「多機能型の地域拠点」の企画立案を運営委員会に掛ける為に、地域診断(社会資源調査)、運営方法、活動内容、ボランティアスタッフの募集・調整等の支援を行った。また、地域福祉活動支援として、「支え合いのまちづくり(地域福祉推進)」を進める互助活動に対して、助成金の交付事業を立ち上げ、交付が決定した。

オープンしてからも、イベントの手伝い、チラシの作成・配布、ボランティアスタッフの募集・調整、月1回の運営委員会の開催など支援の継続を図っている。



【すなまちよっちゃん家 外観】



成 果

- ・地域の中に、乳幼児から高齢者まで、地域の誰もが利用できる「地域の居場所」ができ、新たな地域交流が始まった
- ・担い手の発掘ができた
- ・準備のための会議を何度も開くので、その過程で運営委員である民生委員の方やボランティアスタッフや地域の方と自然につながりを深めていくことができた
- ・多機能型地域福祉活動拠点が確保されたことにより、自分達の居場所を自分達の手で運営していくのだという、地域住民の当事者意識が高まった
- ・多機能型地域福祉活動拠点があることで、情報交換ができ地域の福祉課題のニーズ把握と解決の場になっている

今後の方向性

- ・子育て世代や小学生の参加が伸び悩み、周知方法や参加してもらえそうな仕組みの構築を検討する必要がある
- ・運営一端を担ってきたが、今後は運営委員会が中心となり、自立した運営ができるよう運営支援が必要である
- ・ボランティアスタッフの「互助」を発展させ、地域力の底上げにつなげていきたい

ゴミ屋敷の改善

相談内容

○相談者 社協権利擁護センター

○相談内容

区権利擁護係・長寿サポートセンター・社協権利擁護センターが介入。本人支援と成年後見申し立てを進めている。本人宅はゴミ屋敷化しており、居室の窓ガラスも割れており、外気が入る状態である。また尿失禁等もあり、寝具が濡れたままの状態。暖房設備等なし。衣類も少ない。

介護保険サービスを導入するにあたり、住環境等の整備が必要な状況であり、地域福祉コーディネーターに相談が入った。

支援の流れ

相談を受けた後、現状確認のため訪問を行い、本人のニーズや課題を整理。必要な支援をするため、本人と話を行い、

- ① ゴミ屋敷の改善
- ② 防寒対策(寝具/衣服の提供)

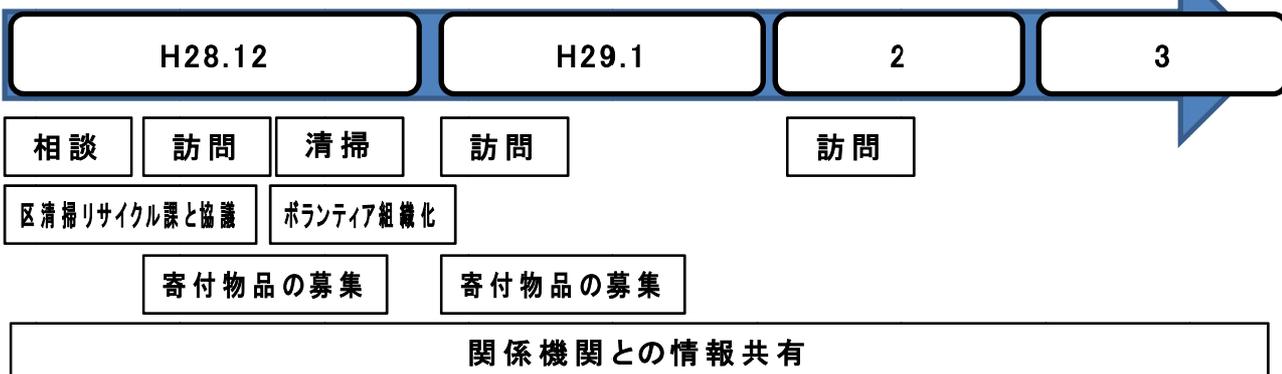
の同意を得る。

①については、同町会長、民生委員、地域福祉サポーター（ボランティア）に協力依頼し、ゴミレンジャー（仮称）を組織した。また清掃リサイクル課、清掃事務所とゴミ出しについて協議し、役割分担を行った。

②については、寝具・衣服寄付募集のポスター・チラシを作り、地域の関係団体へ配布。すぐに多くの提供者が現れ本人へ渡すことができた。



【45ℓゴミ袋で61袋分を廃棄】



成 果

町会長・民生委員・近隣住民とも、近所で今回のような状況が起きていたことを把握していなかった。今回の件で、声かけや見守りなどの必要性に地域が気づき、「なるべく顔を出すようにするわ」等の声もあがり、地域福祉意識の醸成につながった。

今後の方向性

この地域でゴミレンジャー(仮称)を組織化し、個々の見守り意識は芽生えたが、組織としての継続支援にはいたらなかった。組織化の継続についてゴミの片付けだけでなく、片付け後のフォローについても事前説明をしていく必要がある。

関係機関から、ゴミの片付け相談が入るようになったが、地域福祉コーディネーターが無料でゴミの片付けをしてくれるという誤解を生じている面があり、地域力の向上を目的として、地域を巻き込んで活動していることをアピールしていく必要がある。



【ゴミレンジャー（仮称）】

複雑な課題を抱えた家族への支援

相談内容

○相談者 他地区社会福祉協議会 地域福祉コーディネーター

○相談内容

家族全員に身体障害があり、転勤にて他地区より江東区へ転居してきた。地区ではボランティアによる、娘の移動支援を受けていた。小学生の息子が学童クラブに通うために、スクールバスの停留所から学童クラブまでの移動支援を、ボランティアにより組織して欲しい。

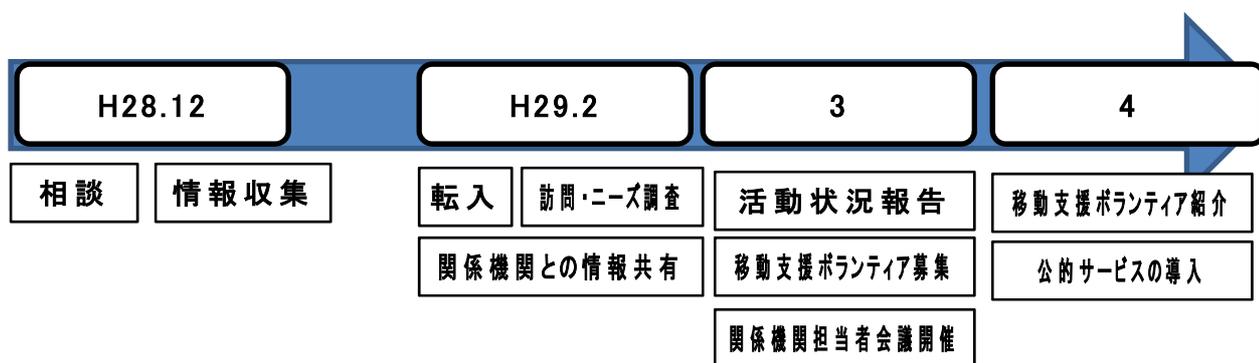
支援の流れ

区内に転入後の相談に応じるため、転居前の地区の社協から情報収集し、相談に対応する体制を準備した。母親は身体障害だけでなく、うつ傾向もあり、精神面の支援も必要であった。母親の希望に応え、負担を軽減するために移動支援ボランティアを組織化することとした。

また、一家に関わる情報の共有と課題解決に向けた検討のため、支援に携わる関係機関を一堂に会する担当者会議を開催した。その結果、公的サービスの移動支援が受けられるようになり、同時にボランティアも見つかり並行して行うこととなった。

【関係機関】

墨東支援学校学年主任、特別支援教育コーディネーター、相談支援専門員（各親・子）
学童クラブ、障害者支援課



成 果

関係機関を一堂に会し、担当者会議を開催したことで、課題の共有と解決に向けた取り組みができた（公的移動支援サービスの導入）。

また、1名ではあるがボランティアの移動支援も入ることができ、地域との関わりもできた。



【担当者会議の記録】

今後の方向性

母親が、一家のキーパーソンとなっており、母親が身体的負担や、ストレスなどで体調を崩した場合、生活が機能しなくなる恐れがあり、母親の気分転換やストレス発散ができるような支援が必要となる。そのため、障害者福祉センターや保健所などでのイベント・講座情報を提供する必要がある。

また、依頼があった場合にボランティアの組織化（グループ化）も視野に置いておく必要がある。

植栽トラブルの改善

相談内容

- 相談者 町会長
- 相談内容

住民の家の前にある植栽が道路にはみ出しており、障害のある方が通行する時にぶつかりそうになっている

住民の家の前にある植栽が道路にはみ出している。時折、道路を通行する障害のある方が、ぶつかりそうになっているのを見かけるとの相談が地域住民から町会長に入る。

町会長から直接住民に話をするのが難しいとのことで、地域福祉コーディネーターが支援に入った。

支援の流れ

相談を受けてすぐ、現状確認のために訪問。

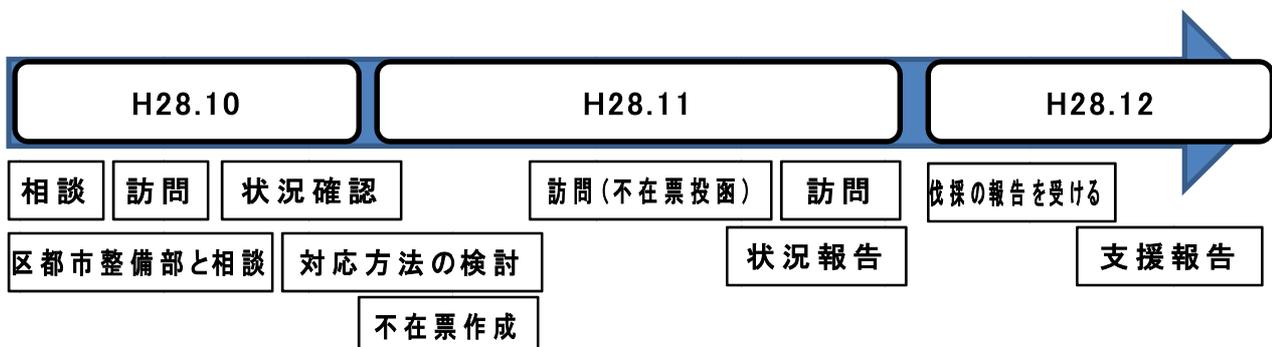
住宅前の道路の交通量や道路の管理者（都道・区道・私道）について確認を行った。

都市整備部と対応について相談した後、状況確認のために定期的に現地を訪問した。

また、該当者宅に訪問して事情を伺うようにした。
 （ただし、このケースでは、不在が多かったため不在票を投函した）



【植栽の状況】



成 果

当該者宅に不在票を投函した後、当該者から連絡があり、自ら専門業者を依頼して植栽を伐採した旨の連絡があった。

町会長宛てに障害のある方の家族から感謝の声をいただいたとの報告を受けた。

植栽に係るトラブルは、区内でも多く見受けられており、行政による介入が難しいことも多い。このケースの支援を通じて、円満解決に繋げるためのポイントをつかむことができた。



【大型トラックが頻繁に通行している】

今後の方向性

植栽に係るトラブルは、当事者同士での話し合いでは解決が難しいケースも見られる。そのため、第三者として間に入り、当事者双方の話を聞くことによって円満に解決に結びつける必要がある。また、今回のように隣接する道路にはみ出している場合には、隣接する道路の所管課を確認して、対応を依頼することが必要である。

ただし、事前に植栽に係る法令等の知識をもっていることが必要である。また、当事者の状況や声を踏まえ、支援の際には慎重に対応しなければいけない。

聴覚障害者への支援(自治会費・共益費滞納)

相談内容

- 相談者 自治会長
- 相談内容 親の死後、7年間に渡り、自治会費・共益費を滞納している聴覚障害者に、支払いの働きかけをして欲しい

親の死後、7年間に渡り、自治会費・共益費を滞納している聴覚障害者に、支払いの働きかけをして欲しいと自治会長から相談を受け、支援をすることとなった。

以前から、再三に渡り働きかけを行ってきたが、支払いに応じることは無かった。

支援の流れ

コーディネーターとして中立的な立場で支援を行うために、本人について(障害の程度、生活歴、経済面等)の情報収集を関係機関等に行う。

その結果、本人が周囲に心を閉ざしていることがわかった。そのため、まずは関係づくりを行い、その後に支払いについての話をすすめて行くこととした。

関係づくりのきっかけとして、コーディネーターの紹介や役割を簡潔にまとめた手紙を作成し、本人宅のポストへ投函。後日、手紙を見た本人が社協に来所されたので、何か困りごとや生活がし難い部分があったら相談して欲しいと伝える。

少し期間を空け、自治会費・共益費の支払いについての相談が自治会長よりコーディネーターにあり、そのことについてコーディネーターが話をしたいと本人に手紙で伝えた。

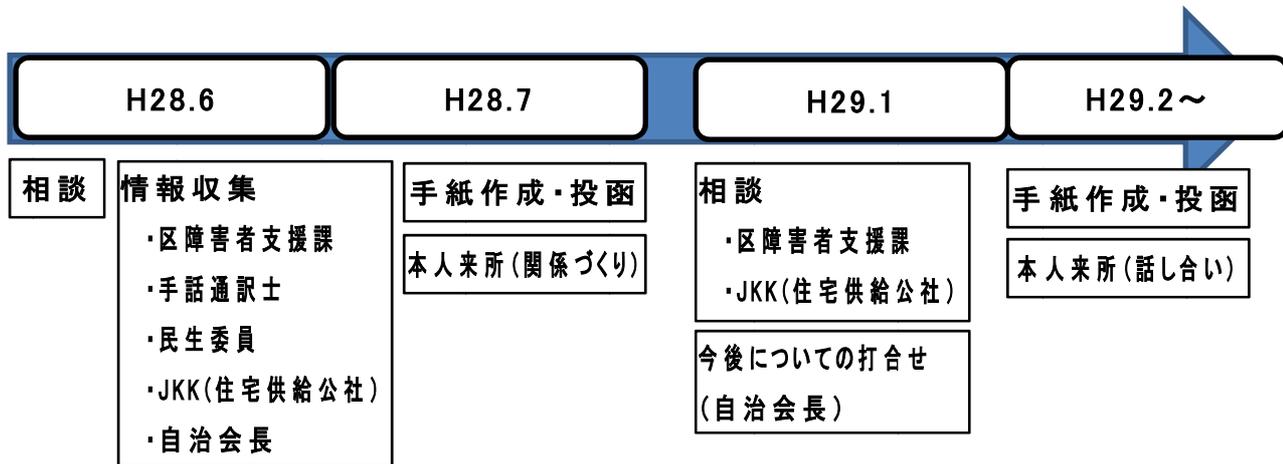
後日、本人が社協に来所。自治会・共益費について用途や仕組み等を丁寧に説明し、本人は今後どうしたいのかを2回に渡り話し合った(いずれも筆談)。

本人との話し合いの中から、障害者ゆえの生きにくさや、周囲との人間関係が希薄で孤立している現状を知ることができた。

周囲は口の動きで、本人は相手が何を言っているのかが解るとの認識であったが、本人は良く解らないため筆談をして欲しいとのことであった。

話し合いの結果、支払いに応じることとなった。

当面の間、会費の支払いをしながら本人の抱える様々な課題の把握に努めた。



成 果

現在、支援継続中である(支払いに応じている)。

周囲から孤立している状況において、本人が気持ちを出せる関係づくりがコーディネーターとできつつある。

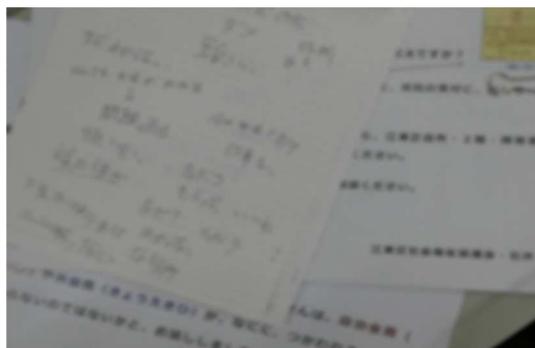
自治会長からも、自治会費・共益費の支払いへの働きかけ以外に、今後も本人に関わり続けて欲しいとの依頼があった。

今後の方向性

自治会費・共益費滞納の裏には多くの「なぜ」が潜んでおり、支払いについては本人の抱えている様々な問題を表面化させる1つの事例であると思っている。

現時点においては、支払いには応じているが、今後どうなるのかは分からない。

しかし、どの様な結果になったとしても、本人が抱えている障害者ゆえの生きづらさに寄り添い、気持ちを引き出し、本人が周囲の方々と関係を築き、安心して生活ができるようになる支援をして行きたい。



【筆談記録】

ホームレス女性への支援

相談内容

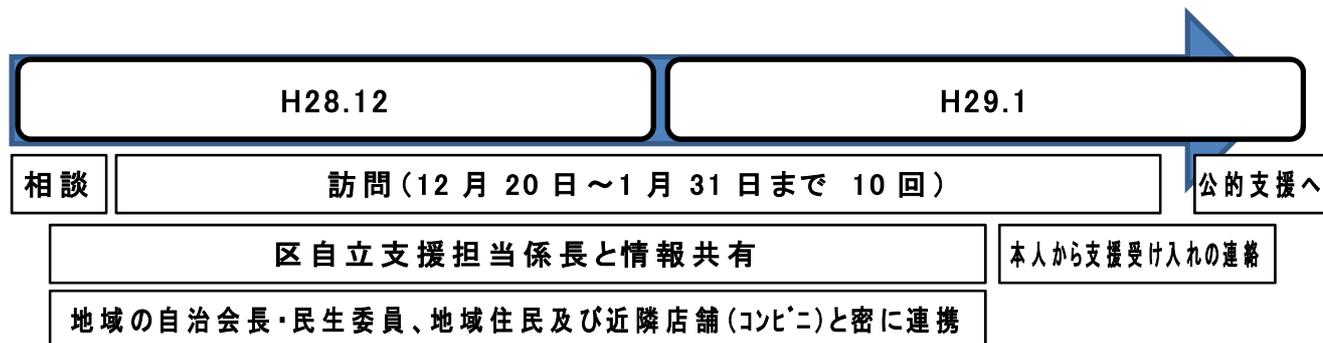
- 相談者 江東区役所 生活支援部保護第一課自立支援担当
- 相談内容 親の死去後、一人暮らしとなる。その後間もなく家賃を滞納する。東京都住宅供給公社(JKK)から文書にて督促状を送付されていたが、支払わず強制退去となる。住んでいた都営住宅の近隣公園でホームレス生活となり、住民より区役所へ連絡が入る。保護第一課自立支援担当が面談したが支援を拒否したため、地域福祉コーディネーターに相談が入った。

支援の流れ

相談の後、現状確認のために訪問を行う。本人のニーズや課題を
今回は、①衣食住の確保の為に、保護一課に繋げる

②支援を受け入れられるように、本人との関係づくりを主として支援と整理。
必要な支援のために本人の同意を取ろうとするが、静かに強く拒否される。そのため日を改め訪問を試みる。だが、当初は近隣の公園で本人と会っていたものの、訪問しても会えない日が続いたため、範囲を拡大し、関係機関からの情報が得られるようにした。

関係機関と密に連絡をとり短期間に何度も訪問を繰り返した結果、本人から支援を受け入れるとの連絡が入り、公的支援を受けることになった。



成 果

当初、頑なに支援を拒否していたが、本人納得の上で支援の受け入れができ、相談を受けてから解決までに1か月間と早期解決の事例となった。

多数回訪問したため、本人に会えなくても地域住民から様々な情報を得ることができた。

社協が介入したことで、すぐに相談ができ、訪問もしてくれるという安心感を得た近隣住民が、説得したり傾聴したりと様々な関わりを行い、本人が支援を受け入れる結果となった。

町会長・民生委員・地域住民・立ち寄った店の店員等に密に連絡を取った事で、関係機関のネットワークができた。

支援のポイント

ホームレスの方は居場所を転々としているため面会できない訪問も多く、関係を築くことが困難であった。ホームレスになるまでの過程や事情・本人が背負っているものを理解するには多くの情報を得ることが重要であったため、近隣住民とのコンタクトが必要不可欠であった。そのため、まず地域を含め関係機関とのネットワークを作り、情報収集及び共有する必要がある。

支援を拒否する親子(80代・50代)への介入

相談内容

- 相談者：自治会（高齢者見守り支援事業「サポート地域」対象団体）
 - ◇ 「サポート地域」の活動として「支え合いマップ作り」を行った際、問題のある家庭として浮かびあがる。
- 相談内容：何度片付けてもゴミ屋敷化する親子がいる。母親の状態が心配。唯一母親が仲の良かった隣人を介して自治会役員で2回ほど片付けに入ったが、物が紛失したと息子に訴えられ、その隣人も他界して以降は、自治会として介入はしていない。住民も敬遠し、孤立している状態であると思われる。
 - ◇ 母親は眼病による視力低下が激しい。
 - ◇ 息子が買う弁当1個を1日数回に分けて食べている状態。
 - ◇ 家賃滞納がある。

支援の流れ

① 関係機関と協議…現状確認

長寿サポートセンター（地域包括支援センター）に現在まで支援の経緯があるかを確認。結果長寿サポートセンターも介入の糸口をつかんでおらず、介護保険も未申請でどこにもつながっていない状況が発覚。すぐに長寿サポートセンター職員が訪問したが、母親との面談の結果は「今は元気で息子もいるし、何も支援は要らない」とのことであった。



【住宅内の状況】

② 継続的な訪問

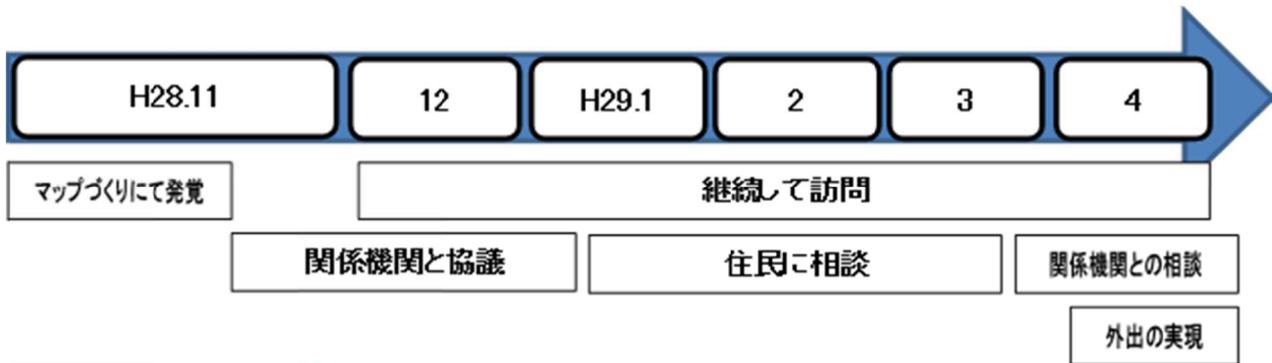
長寿サポートセンターと連携しながら地域福祉コーディネーターも逐次訪問。息子がいると母親とは会わせてもらえないが、何回目かに了承を得て母親と話をする。3月末まで長寿サポートセンター職員と地域福祉コーディネーターとで関係作りの訪問を続けた結果、母親本人の視力低下の訴えを糸口に、平成29年4月に入りようやく職員同行による病院受診の同意を息子から得る。

③ 住民への相談

継続的な訪問の中でこの母親と地域との間につながりを作ることを意識し、訪問している事実は自治会へ逐次報告を行っていた。病院受診時には自治会所有の車椅子を借用できるか相談したところ、関わりを敬遠していたはずの自治会から快諾を得られ、外出が実現した。

④ 関係機関との相談・外出の実現…複数の病院受診

長寿サポートセンター職員の息子への働きかけにより、眼以外に気になっていた皮膚についても病院を受診することができた。各々の受診時においては、母親・息子・区役所・病院・自治会とのやり取りの全てについて、その都度地域福祉コーディネーターと長寿サポートセンターとの間で密に連携を取ることで実現することができた。自身では受診の必要性を感じていなかった母親も、外気に触れ、植え込みの花を観賞し、出先で住民と挨拶を交わすという久しぶりの経験から、それまでの関わりで見せていた以上に非常に穏やかでほころぶような笑顔を浮かべていた。



成 果

○ 対要支援者

訪問を続けたことで母親とは関係性が構築でき、実は寂しさを抱え、支援を求めている気持ちを表出していただけた。また、病院受診のために久しぶりの外出を実現させ、本人から非常に喜ばれていた。

○ 対住民

自治会住民からの声を関係機関につなげ、関係機関との連携・協働の上に外出をしたことにより、地域の住民に出会い、より本人を住民に意識してもらうことができた。これが新たな契機となり、長寿サポートセンターと地域福祉コーディネーターとで一度部屋の片付けを実施した際には、自治会からゴミ袋を提供していただいた。またゆくゆくはサロン活動に参加することへの快諾が得られ、敬遠していた地域住民に徐々に受け入れてもらえるようになっていく。

今後の方向性

息子の「今は大丈夫」「何かすればより母親の状態が悪くなる」との訴えに介入が難しい状況は続いている。今後は息子への支援も並行して行うことを念頭に、息子との関係作りを進める。具体的には、母親へは介護や福祉のサービス導入を図ること、自治会住民と協働してゴミの片付けをすること、自治会主催の高齢者サロンへ出向くこと等、サービス導入でQOLの向上を図り、地域とのつながりを取り戻す支援を続ける。息子に対しては関係作りを進めながら、生活面や経済的な自立支援と、母親の介護についての話し合いを進めていく。

江東区助け合い活動連絡会への活動支援

連絡会の概要

目的

- ・区内で住民主体の助け合い・支え合い活動を行っている団体同士の交流、ネットワーク構築
- ・助け合い・支え合い活動の普及啓発

メンバー構成

- ・以下の活動に取り組んでいる団体、個人
住民主体の助け合い、支え合い活動／見守り活動／サロン活動など

主な活動支援

①連絡会開催準備

会場確保、開催案内送付、配布資料準備等

②研究会(勉強会)開催準備

会場確保、開催案内送付、配布資料準備等

③世話人会(幹事会)開催準備

会場確保、開催案内送付等

④助け合い活動団体紹介シートの回収、編集

⑤会議録の作成、送付

⑥連絡会、研究会、世話人会への参加(会場準備、受付等も含む)



【主に事務・運営面の支援を行っている】



【江東区助け合い活動連絡会の様子】



【研究会(勉強会)の様子】

住民への周知・PR活動

活動の内容

新しいマンションが立ち並び、高齢化率が極端に低く、町会・自治会組織率も低い地域がある。

これらの地域で社協や地域福祉コーディネーターを知ってもらい、地域の課題を発掘していくにはどうすれば良いのか住民への周知・PR方法を模索していたところ、その地域のマンションが近隣の大学キャンパスを会場として合同で主催する納涼祭や、防災訓練があることを地域住民やボランティアから寄せられた情報で知り、地域を把握するために参加することができた。



【平成28年8月 地域の納涼祭に参加】

成果

防災訓練は大型マンション・都営住宅・その他6つの集合住宅が合同で参加するものであったが、その冒頭で社協としてあいさつと事業PRを行った。当日その場でサロン立ち上げの相談や、既にサロンを開催していたマンション住民からふれあい・いきいきサロンへの登録に向けての相談があった。また、住民からは加齢による心身の弱りの訴えや、今後の生活への不安等の相談を受けた。いずれも今すぐサービスを望んでいるわけではないが、「今後相談できる場が分かって安心した」等の声をいただいた。

また、この地域マンションごとに立ち上がったサロン間のコーディネートをしたことで、マンションを越えたさらなる住民同士の交流を促すことができた。

これまで分からなかった地域のマンション同士の関係性や理事会等の組織も把握でき、コーディネーターとして活動しやすくなった。



【平成28年10月 合同防災訓練の様子】

今後の方向性

今後も地域のイベントや町会・自治会主催の行事等には積極的に参加していき、社協や地域福祉コーディネーターの存在を住民に広く知ってもらおう活動を行っていく。

参考資料

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課 地域支援係
事業報告

地域福祉事業

(1) こども家庭福祉事業

実施年月日	説明
年間	<p>1. 家庭訪問型子育て支援（ホームスタート）</p> <p>子育ての不安解消、孤立化防止（孤独感の解消、親自身の心の安定）、虐待予防を目的に、NPOこうとう親子センターへ事業委託。</p> <p>未就学児（6歳未満）のいる家庭に、オーガナイザーがマネジメントを行い、ホームビジター（ボランティア）が週1回程度、計6回訪問し「傾聴」「協働」などの支援をした。</p> <p>○経費総額 2,215,728円（自主財源）</p> <p>・訪問家庭数 91家庭 ・訪問回数 678回</p> <p>・オーガナイザー 3名 ・ホームビジター 62名</p>

(2) 高齢者地域見守り支援事業

実施年月日	説明
年間	<p>ひとり暮らし高齢者が、自宅で亡くなり長期間気づかれない「孤独死」や、地域との関わりを持たない「社会的孤立」状態を未然に防ぐため、地域主体による高齢者の見守り体制の構築を支援した。</p> <p>○経費総額 30,972,676円（区受託金）</p> <p>1. サポート地域の育成・援助</p> <p>平成28年度サポート地域（6地域）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルネ門前仲町見守りボランティア ・都営豊洲5丁目団地自治会 ・大島八丁目第一親和会 ・大島八丁目第二団地自治会 ・ヴェラハイツ緑道公園式番館管理組合 ・都営南砂6丁目第二アパート自治会 <p>サポート地域 累計 56地域（平成20～28年度）</p>
28. 7.23	<p>①先進地区視察</p> <p>地域住民主体の見守り活動の推進地区である、東砂七丁目町会への視察を行った。</p> <p>全1回 参加者 30名</p>
28. 8.20	<p>②地域で見守り 支え合いセミナー</p> <p>講義「これからの地域に求められる支え合いの極意とは」、課題演習「地域が見えてくる支え合いマップづくり」を通じ、地域力アップの方法について学んだ。</p> <p>全1回 参加者 27名</p>

(2) 高齢者地域見守り支援事業

実施年月日	説明
28.10.29～ 29. 2.25	③個別セミナー 平成27年度サポート地域において、支え合いマップづくり等を通じて地域課題を抽出し、今後の見守り活動の方策を検討した。 全10回 参加者 延 68名
随 時 28. 8. 1 29. 2.13	④サポート地域への援助 サポート地域(現・準・旧)への訪問ならびに相談援助を行った。 また、サポート地域連絡会を開催し、サポート地域間の情報交換やノウハウの共有、提供を行った。 全2回 参加者 延 93名
28.10.17～ 29. 2.28	2. 高齢者地域見守り連絡会の開催 区内8圏域(白河・冬木・東陽・豊洲・亀戸・大島・南砂・東砂)にて連絡会を開催し、地域見守りネットワークの構築を図った。 全8回 参加者 延 456名
28. 5.21	3. 見守り活動の普及・啓発 ①地域で見守り サポート地域活動実践発表会 一般区民を対象に活動実践発表会を開催し、講演「超高齢社会における地域支え合い活動のあり方」、平成27年度サポート地域(大島二丁目西部地区・東部地区、東大島ハイライズ自治会、大島四丁目町会、森下三丁目サポートの会)による高齢者地域見守り活動の取り組みに関する発表を行った。 全1回 参加者 72名
随 時	②見守り活動の普及・啓発 町会・自治会、民生委員、老人クラブ等を訪問し事業説明および、地域の見守り活動についての相談援助を行った。 また、社協だより、ホームページ、啓発チラシ等にて広報・PRを行った。

(3) 電話訪問事業

実施年月日	説明
年 間	区内在住70歳以上のひとり暮らしの方を対象に、週1回電話による訪問で安否の確認及び孤独感の解消を図った。 ○経費総額 5,370,513円(区受託金)
28年度	訪問員 49名 対象者 154名 週5日実施 242回 延 8,940件
27年度	訪問員 47名 対象者 144名 週5日実施 243回 延 8,495件

(4)小地域福祉活動事業

実施年月日	説明
28.4.17～ 29.3.26	<p>1. 社協出前講座</p> <p>職員が地域に出向き、福祉講座や情報提供を通じて住民の福祉に対する理解・関心を深め、住民主体の地域福祉の推進を図った。</p> <p>○経費総額 47,340 円</p> <p>全 9カ所 参加者 延 210名</p>
28.4.22～ 28.11.17	<p>2. 地域別福祉セミナー</p> <p>地域の課題解決に向けた講演会やセミナー等を開催した。</p> <p>○経費総額 265,758 円</p> <p>第1回「地域福祉啓発セミナー」 ～地域での支え合い活動の意義と進め方～</p> <p>第2回「地域福祉フォーラム」 ～地域の力による新たな助け合いの仕組み作りへ～ (生活支援コーディネーター事業と合わせて実施)</p> <p>全2回 参加者 延 396名</p>
28.8.17～ 28.11.30	<p>3. 小地域福祉懇談会</p> <p>地域の福祉課題について、地域拠点での地域支援ボランティア養成講座、担い手養成講座の受講者を対象に、意見・情報交換を行う懇談会を実施した。</p> <p>○経費総額 28,600 円</p> <p>全4回 参加者 27名</p>
年 間	<p>4. 地域福祉活動支援事業(助成)</p> <p>町会・自治会、マンション管理組合等が行う小地域福祉活動(地域福祉推進)に対して、運営費の一部を助成することにより小地域福祉活動を支援した。</p> <p>○経費総額 1,433,884 円</p> <p>44件 1,320,000 円</p>

実施年月日	説明																													
28.4.20～ 29.3.22	<p>5. 地域福祉活動支援事業（拠点整備事業）</p> <p>事業運営の拠点となる「地域の拠点」を確保し、交流サロン（福祉総合相談、ボランティア相談を含む）、各種イベント、地域との連絡会などを開催し、地域福祉コーディネーターが地域とのつながりを構築した。</p> <p>○経費総額 329,581 円</p> <p>全24回（4地域・各6回） 参加者 延812名</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">城東地区</th> <th colspan="2">深川地区</th> </tr> <tr> <th>城東南部 砂町文化センター</th> <th>城東北部 総合区民センター</th> <th>深川南部 豊洲文化センター</th> <th>深川北部 古石場文化センター</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミュニティカフェ</td> <td>88名</td> <td>109名</td> <td>114名</td> <td>69名</td> </tr> <tr> <td>講座・イベント ※1</td> <td>97名</td> <td>122名</td> <td>124名</td> <td>60名</td> </tr> <tr> <td>ボランティア相談</td> <td>4件</td> <td>4件</td> <td>1件</td> <td>3件</td> </tr> <tr> <td>福祉総合相談</td> <td>7件</td> <td>6件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1生活支援コーディネーター事業の地域ボランティア養成講座・支え合活動の担い手養成講座を含む</p> <p>6. 地域福祉活動支援事業（支援）</p> <p>地域団体（町会・自治会）、ボランティアグループ、NPO団体などが行う地域福祉活動（互助活動など）を支援した。</p> <p>①多世代交流の里 すなまちよっちゃん家 ②みなみすなこども食堂 ③豊洲こども食堂</p> <p>3件 460,500 円</p> <p>○経費総額 511,558 円</p>		城東地区		深川地区		城東南部 砂町文化センター	城東北部 総合区民センター	深川南部 豊洲文化センター	深川北部 古石場文化センター	コミュニティカフェ	88名	109名	114名	69名	講座・イベント ※1	97名	122名	124名	60名	ボランティア相談	4件	4件	1件	3件	福祉総合相談	7件	6件	2件	2件
	城東地区		深川地区																											
	城東南部 砂町文化センター	城東北部 総合区民センター	深川南部 豊洲文化センター	深川北部 古石場文化センター																										
コミュニティカフェ	88名	109名	114名	69名																										
講座・イベント ※1	97名	122名	124名	60名																										
ボランティア相談	4件	4件	1件	3件																										
福祉総合相談	7件	6件	2件	2件																										

(5) ふれあい・いきいきサロン活動事業

実施年月日	説明												
年 間	<p>高齢者、障害者、子育て家庭等の孤立化防止を目的に、地域における住民同士の自主的な仲間づくり、居場所づくりであるサロン活動を支援した。</p> <p>○経費総額 1,990,902 円（歳末たすけあい募金配分金 1,969,000 円）</p> <p>○年度推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区 分</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> <th>27年度</th> <th>28年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録サロン数</td> <td>72サロン</td> <td>75サロン</td> <td>81サロン</td> <td>92サロン</td> <td>110サロン</td> </tr> </tbody> </table>	区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	登録サロン数	72サロン	75サロン	81サロン	92サロン	110サロン
区 分	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度								
登録サロン数	72サロン	75サロン	81サロン	92サロン	110サロン								

(6) 地域福祉コーディネーター事業

実施年月日	説明																																							
年間	<p>地域の困りごと等の課題解決に向けた住民活動を支援をすることを目的に、区内4地域に8名の地域福祉コーディネーターを配置し、高齢者地域見守り支援事業、小地域福祉活動事業、ふれあい・いきいきサロン活動支援、生活支援コーディネーター事業を兼務して、地域課題の把握、相談、支援を行った。</p> <p>○経費総額 163,132 円</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">相談</th> <th colspan="3">支援</th> </tr> <tr> <th>個別相談</th> <th>地域相談</th> <th>個別支援</th> <th>地域支援</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>城東南部</td> <td>36件</td> <td>29件</td> <td>149件</td> <td>310件</td> <td>98件</td> </tr> <tr> <td>城東北部</td> <td>23件</td> <td>20件</td> <td>95件</td> <td>241件</td> <td>95件</td> </tr> <tr> <td>深川南部</td> <td>19件</td> <td>44件</td> <td>98件</td> <td>528件</td> <td>145件</td> </tr> <tr> <td>深川北部</td> <td>16件</td> <td>38件</td> <td>91件</td> <td>174件</td> <td>36件</td> </tr> </tbody> </table>						相談		支援			個別相談	地域相談	個別支援	地域支援	その他	城東南部	36件	29件	149件	310件	98件	城東北部	23件	20件	95件	241件	95件	深川南部	19件	44件	98件	528件	145件	深川北部	16件	38件	91件	174件	36件
	相談		支援																																					
	個別相談	地域相談	個別支援	地域支援	その他																																			
城東南部	36件	29件	149件	310件	98件																																			
城東北部	23件	20件	95件	241件	95件																																			
深川南部	19件	44件	98件	528件	145件																																			
深川北部	16件	38件	91件	174件	36件																																			

(7) 生活支援コーディネーター事業

実施年月日	説明
28.4.26～ 29.3.3	<p>高齢者の生活支援体制整備のため、生活支援サービスの担い手の養成・発掘やネットワーク化等を行う「生活支援コーディネーター」を配置した。</p> <p>○経費総額 9,467,377 円(区受託金)</p> <p>1. 地域ニーズ・高齢者ニーズの把握</p> <p>①当協議会の生活支援に関する事業(ふれあいサービス、権利擁護センター)を通じた、高齢者の生活支援サービスのニーズを調査した。</p> <p>②高齢者見守りサポート地域、ふれあい・いきいきサロンを訪問し、地域の高齢者に生活支援サービスのニーズの聴き取り調査を実施した。</p> <p>全 123団体</p>
28.4.26～ 29.3.3	<p>2. 地域資源の把握・開発</p> <p>①地域での要支援(介護保険区分)者の受け入れ(通所型)や、ちょっとした家事援助(訪問型)の実施状況について、高齢者見守りサポート地域や、ふれあい・いきいきサロンを訪問し、聴き取り調査を実施した。</p> <p>全 123団体</p>

実施年月日	説明
28.5.16～ 29.3.13	<p>3. 多様な主体への働きかけ</p> <p>前年度に実施した、住民主体の生活支援サービス参入に関するアンケートにおいて、前向きな回答のあった多様な主体（介護事業所・NPO・地域団体等）を訪問し、サービス実施への働きかけを行った。</p> <p>全 22団体</p>
28.5.30～ 28.11.28	<p>4. 関係者のネットワーク化</p> <p>①区内で助け合い・支え合い活動に取り組んでいる地域住民団体の把握と交流、ネットワーク化を目的とした「江東区助け合い活動連絡会」開催への支援を行った。</p> <p>全 7回 参加者 206名</p> <p>②江東区助け合い活動連絡会に参加する、地域で助け合い・支え合い活動に取り組んでいるリーダー層の方々の互助活動の知識向上を目的とした研究会開催への支援を行った。</p> <p>全 2回 参加者 58名</p> <p>③世話人会（江東区助け合い活動連絡会役員会）開催への支援を行った。</p> <p>全 9回 参加者 延 65名</p>
28.8.1～ 29.3.21	<p>5. 研修・連絡会等への参加</p> <p>①研修・連絡会（情報交換会）</p> <p>全 7回 参加者 10名</p> <p>②地域包括運営協議会</p> <p>全 2回 参加者 2名</p> <p>③地域ケア会議等</p> <p>全 9回 参加者 12名</p>
28.8.17～ 29.11.30	<p>6. 「担い手の養成」</p> <p>※地域福祉活動支援事業（拠点整備事業）と併せて実施。</p> <p>①地域ボランティア養成講座 全4回 参加者 23名</p> <p>②支え合い活動の担い手養成講座 全4回 参加者 24名</p>

実施年月日	説 明
28.10.21～ 29.3.16	<p>7. 協議体「下町支え合い会議」の開催</p> <p>総合事業において、多様な提供主体間の連携・協働による資源開発等を推進するため、定期的な情報共有及び連携強化を行う場として「下町支え合い会議」を開催した。</p> <p>①下町支え合い会議 全2回 参加者 56名 ②下町支え合い会議(幹事会) 全3回 参加者 20名</p>
28.11.17	<p>8. 「支え合いのまちづくり」の重要性についての区民への普及・啓発</p> <p>①地域における住民主体の助け合い活動の普及・啓発を目的とした、江東区地域福祉フォーラム(テーマ:地域の力による新たな助け合いの仕組み作りへ)を地域別福祉セミナーと併せて企画・実施した。</p> <p>全 1回 参加者 延 340名</p>
随 時	<p>9. 相談への対応</p> <p>地域における介護予防・生活支援サービスに関する相談に対応した。</p>